

流山をつなぐ野田！

野田ひろき新聞



2015年3月18日発行 第2号 編集・発行 野田ひろきと共に考える会



みなさんこんにちは、野田ひろき新聞2号をお届けします。今回は3月15日に行われた「ながれやま会議」の様子を中心にお知らせします。ゲストはあの「利根運河シアターナイト」の創始者で、現在東京芸術大学大学院でまちづくりを学ぶ星野善晴氏と、昨年のシアターナイト代表の東京理科大学3年の中村遥氏です。建築を学ぶお二人からそれぞれの活動とまちづくりの視点を聞きました。

第3回ながれやま会議

第一部 建築学的プレゼン&トーク

●場所を見つける 場所をつくる—星野善晴(24歳)

東葛高校、理科大建築学科、現在東京芸術大学大学院と進み、今夏からイタリアへ留学予定です。

理科大建築学科1年生のとき、全員受ける「ピクニック」というユニークな授業がありました。面白い場所を見つけてデザインしなさいというもので、僕のチームは一本の木を見つけ、食べ物もその場に合うものを選び、場所づくりを楽しみました。

翌年ベネチアへ行ったら、人々は観光地でも、路地裏でも、場所を使いこなす名人でした。夜は運河に光が反射し、みんな集まり交流する。日本でもできないかなと思い、利根運河シアターナイトを思いつきました。建築を専攻していたので、まちをどうつくるかという観点から地域の人と一緒にやってみようと考え協力を仰ぎました。

利根運河は地元の人たちが企画した朝市などで盛り上がる人気スポット。運河で地域の人と学生と一緒になれたらいいのと思った。ベネチアほど華やかではなかったけど、やってみたらたくさん集まった、学生と地元の人でエネルギーの集まる場所になったのがすごかった。理科大の講義室も地域の人々の集会場みたいになり、大学がまち、まちが大学のキャンパスのようでした。

●流山まちづくり—中村遥(21歳)

1万人を超える来場者の利根運河シアターナイト、本当にありがとうございました。地域の方からは作品づくりのためのペットボトル等の寄付をいただいたり、流山工業団地をはじめ地域のイベントに参加させてくださり、協賛もいただきました。反省会も含



星野善晴氏

め意見を交わしながら空間づくりができました。



中村遥氏

シアターナイトで得た人のつながりを生かして、流山の設計演習という授業に臨めました。ガイドブックに載っていない流山を見つける目的でまちを歩き、水の出る古い井戸、苔の生えた瓦屋根、細い路地の発見をしたり、古地図から明治・大正・昭和にわたり流山がどう変わっていったかを知りました。住んでいる人たちからも話を聞き、実在する古民家の改修(リノベーション)を提案しました。

今、私たちの住んでいる流山が人の集まる価値のあるものになればと、一茶双樹記念館の横の空き地の有効利用を含め、古民家、井戸、自然の美しさなどを活かした空間づくりの提案を、昨年12月の「流山まちづくり大学」(東京理科大学セミナーハウス主催)で行いました。

●トーク 野田25歳×星野24歳×中村21歳

野田 私、実はこのシアターナイトに運命を感じるところがあって、京都の同志社大学にいたときにカモシネマという同様のイベントをやったんです。鴨川で映画を上映しました。自分の生まれ育った流山で同じことをやっているんだという共感から参加しましたが、ぜひ皆さん来てほしい。本当にすごい。

野田 シアターナイトのイベントそのものが研究室とは離れているという話を聞きましたが？

星野 理科大では流山の研究をしている先生がいなかった。じゃ、僕たちがやろう、と1、2、3年限定、研究室に入る前の自分たちだけで、研究してきたことを活かして実際に発表しようという企画を立てました。

野田 すごいですよね、完全に学生主導。

星野 初めは大学が認めなかった。完全に独立してしてやってやるという心意気でやりました。

(裏面に続く)



野田 中村さんは流山を他にも研究してますね？

中村 地域の歴史研究家・青木更吉さんには堤防の移り変わり、家が階段で降りる位置にあるのは昔の堤防がそこにあったから、というようなことを朝から晩までお話しいただきました(笑)。今の行灯街道より川に近い方の道が賑わっていたという話も。

中村 昔は水運が主だったから川に沿った部分が栄えていた。車が通るようになって賑わう道が別の道に移ったんですね。



中村氏の古民家再生プロジェクト

星野 「都市計画」は地図を広げて幹線道路・鉄道の整備計画と始まるけど、私たちが考える「まちづくり」は、そこに昔から住んでいる一軒一軒や、例えばさっきの苔の生えた瓦などが景観をつくっていく、その人の愛着のある場所、記憶のある場所、小さな集積がまちになるというスタンスなんです。

野田 うーん、なるほど！ところで、廃れるものを守るべきだと言っても、都市は進化していくから難しいけど、流山に長く住んでもらいたいと思うとまちの良さを守りながらつっていききたいですね。

野田 地域とかかわるって難しかったですか？

中村 みなさんが声を掛けて励ましてくれました。

星野 学生さんやってくれるんだ、という感覚の地域もあるが、地元の人がやる気ある流山はすごい。

野田 星野さんは今、芸大でどんな活動を？

星野 山梨県の小淵沢で、アートのジャンルの人とまちづくりを行っています。小淵沢は八ヶ岳が見える美しいまち、でも地元の人にはそこに生える赤松の林を伐採してる。林の中で芸大の音楽専攻の人たちとコンサートを開いたら地元の人や行政がびっくりし、普段通り過ぎる場所がこんなきれいなところだったのか、ちょっと発想を変えるとこんなふうに使えるのかと気づき、意識が変わった。僕たち学生ができるのは場所を見つけ出して、提案すること。気づき生かす人がいる。そんなことをやっています。

第二部 まちづくりは思い出づくりなのか

野田 流山の文化を知った上でまちづくりに関わりたいと思います。既にある懐かしいものを大事にしたい。みなさんの懐かしいものは？

会場から一流山鉄道 流山市民音頭 小野ショップ 田植え(おにぎり) みりん 新川耕地 江戸川 オランダ観音 野馬土手 利根運河 花火

Yさん その場所で何をしたかが大切でしょう。

Kさん 地元の若い人に祭りに参加してもらいたい。御神輿の宮出しが継承できない。

Mさん 中高年が頑張ると祭りが盛り上がります。

Yさん その瞬間だけじゃなく、まちに居場所を作るという目で見たい。祭りでなく日常。

Sさん 大きな看板を作ればみんな来るのでは？

Nさん 住んで5、6年、森がどんどん無くなり、景色が変わっている。どう残しながら、人が入ってくる状況にするか。都心に近いから難しい。

Hさん 更地にすると記憶が消える、今ある場所を使って手を入れることが大事なんじゃないか。

野田の気づき 「流山の空間としての価値を創造する」

そこに行きたい、と思える場所がほしいですね。森林も古民家も持ち主の手を離れる前に何かできないだろうか。

会議を終えて…野田ひろき

想いの詰まった一つ一つの集積がまちになるという視点には私の気持ちと一致するものがありました。既にある懐かしい場所・ものを守りながら住む人の心になう、住んで気持ちのいいまちをつくる助けになりたいです。新しい駅が出来てまちが発展するのはうれしいです。どうしたら発展の中に伝統を再認識できるか、さらに日常的に人が集まる場づくりには何が必要か考えていきたいです。



そして会議は続く

「ながれやま会議」は
あなたを待っている！

第4回 3月28日(土) 15:00~16:30

第5回 4月12日(日) 15:00~16:30

———入場無料・お気軽にお越しください。———

流山市生涯学習センター3階会議室
〒270-0153 流山市中 110

あなたも野田ひろきと共に考えよう 化学変化が起きる、まちの色が変わる！

後援会の加入のお誘いです。ご連絡をお待ちしています。

[電話] 090-4950-9992 [メール] nodahiroki1989@gmail.com

カンパは、下記口座までお願いします。※法律の関係から、御名前の記載をお願い致します。

ゆうちょ銀行 ○五八支店 普通預金 野田ひろきと共に考える会 3436118